

「市民ワークショップ」の開催結果について

開催日：第1回 平成23年7月10日(日)

第2回 平成23年7月17日(日)

開催会場：大船渡市役所

参加者数：第1回 市民28人、(協力)岩手県立大学：ファシリテーター等9人、学生9人

第2回 市民21人、(協力)岩手県立大学：ファシリテーター等10人、学生7人

内 容

ワークショップ形式により、「復興によって目指すべき大船渡市の姿」を検討した。

結果概要

下記(大船渡市復興計画(案)抜粋)のとおり、「復興によって目指すべき大船渡市の姿」を取りまとめた。(別紙ワークショップグループごとの結果概要参照)

大船渡市復興計画(案)抜粋

6 復興後の大船渡市の姿

復興によって目指すべき大船渡市の姿を次のとおりとします。

これは、高校生からお年寄りまで、さまざまな世代の市民が参加した市民ワークショップでの議論をもとに導き出したものです。

大災害を乗り越え、よりよいまちとして再生するために目指すべきまちの姿

「命を守り、夢を育むまちづくりと防災に協働するまち大船渡」

市民ワークショップでの提言などをまとめると、次のようになります。

だれもが安心して暮らせるまち

被災者の生活再建を最優先として、一日も早く市民生活の安定を取り戻すためには、災害にくじけない市民の思いを糧としながら、次のことに取り組みなければなりません。

ア 早期の住宅再建と公営住宅の整備

イ 今回の災害の教訓を生かした防災体制の見直し(防災施設に頼りすぎない防災対策の推進や防災教育の充実など)

ウ 高齢者や障がい者にやさしいまちづくり(バリアフリーのまちづくりの推進や公共交通システムの整備など)

エ 将来を担う子どもたちの教育の充実

活気あふれるまち

大船渡市が活気を取り戻すためには、地域の特色と資源(人的・物的)を最大限に生かした産業の再生と創出が大切です。

ア 被災した産業基盤の早期再建

イ 豊かな自然の恵みなどを生かした産業振興(農林水産業・地場産業・観光産業の振興や産業間の連携推進など)

ウ 魅力的・独創的なまちづくり

エ 新たな産業の創出と雇用の確保

オ 環境共生型のまちづくり(自然エネルギーの活用など)

支え合いの“わ”でつなぐまち

私たち大船渡市民は、多くの皆様からご支援をいただきながら、ともに助け合い、励ましあいながら災害発生後の日々を過ごしてきました。

この間、人と人をつなぐ「和」と、まちや集落をつなぐ「輪」に支えられたところであり、今後においても、二つの“わ”を大切にしながらまちづくりを進めます。

ア 市民をつなぐ コミュニティーの確保や防災ネットワークの形成など

イ 集落をつなぐ 集落の孤立を防ぐ道路ネットワークの形成や循環バスの運行など

ウ 世代をつなぐ 子どもからお年寄りまで、幅広い世代・階層の意見を取り入れたまちづくりの推進や文化・伝統の保存・継承など

エ 都市をつなぐ 気仙2市1町の連携強化など

大船渡市復興計画に係る第1回市民ワークショップ結果概要 (平成23年7月10日(日)午後1時30分～4時)



< A班 >

復興計画骨子の項目	災害から立ち上がるために必要なこと	もともとのまちの課題への対応	新たなまちづくりへのアイデア	復興によって目指すべき大船渡市の姿 キーワード(議論のまとめ)
市民生活	<p>【生活復興も大切】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安心な暮らしが保てる計画 実行を ・前期・中期・後期それぞれにあるべき姿を検討 ・被災者にとっては短期的目標も大切 <p>【住宅】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公営住宅の早期計画 	<p>【人口減少問題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口流出問題を考えるべき <p>【高齢化社会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バリアフリー ・コンパクトシティ ・自動車がなくても不便のないまち 	<p>【戻りたくなるまち】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こどもが将来この地で働けるまち(～があるから帰りたい) ・雇用の創出 ・自分の就きたい仕事に就ける 	<p>生活再建</p> <p>早く安心して暮らせるようになりたい 将来このまちに戻りたい・帰りたい</p> <p>産業</p> <p>漁業・水産業、農業、林業を元気にしたい 地域特性に応じた産業を育てたい 気仙らしさを大事にしたい 新たな産業を誘致して活性化を図りたい</p> <p>夢のある街づくり</p> <p>独創的なまちづくり 魅力的な核施設のあるまち 新しい大船渡のまち 気仙地域が連携したまちづくり</p> <p>防災まちづくり</p> <p>命と住宅を津波から守る「防災都市・大船渡」 津波防災都市宣言 防波堤にたよらないまちにしたい 津波を知って、備えたい</p> <p>コミュニティ～雇用</p> <p>市民防災のネットワークをつくりたい こどもからお年寄りまで楽しめる行事がある コミュニティを守る住宅地をつくりたい</p> <p>福祉・高齢化社会</p> <p>高齢者にやさしいバリアフリーのまちがいい</p> <p>土地利用</p> <p>新たなまちとしての土地利用を考えよう 市全体としてのランドデザインを描きたい</p> <p>復興に向けて</p> <p>具体性・現実性のある復興プランとしたい</p>
産業経済		<p>【地区特性を活かしたまち】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気仙大工 ・第一次産業の活性化 ・複合的な新しい特徴 ・地域特性に応じた産業振興 	<p>【漁業・観光・工業のバランス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水産、商業、工業、教育等が個別にわかりやすいまち <p>【商業機能の確保】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共同店舗の設置(八戸市八食センター) 	
都市基盤	<p>【防波堤】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防波堤も大事 ・湾口防波堤はいらない ・防潮堤を前提としないまちづくり <p>【市民の合意】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たなまちづくりに要する時間を市民が納得する <p>【避難施設】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難ビル、多機能ビル <p>【土地利用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的、現実的な土地利用を考えるべき ・どんなまちにするかのグラウンドデザインが必要(例：防災のまち) ・復旧か？新たなまちをつくるか？ 	<p>【市全体のあり方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大船渡市全体での土地利用の検討 <p>【連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・陸前高田市、住田町との連携 	<p>【安全性確保】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・津波から人の命と建物を守る ・防災都市・大船渡 ・二度と被災しないまちづくり ・湾口防波堤等にたよらないまちづくり ・高台への多機能ビルの建設 ・津波防災都市宣言 <p>【夢のあるまちづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・独創的な街づくり、核となる施設がほしい ・魅力あるまち ・新しい大船渡をつくる ・各県に1兆円を配布、基金 ・海岸部に野球場を整備 	
防災まちづくり			<p>【発想の転換】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・負の遺産をプラスに変える <p>【次世代に伝える】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害遺構を残したい ・津波を知ることのできるまち <p>【コミュニティ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民防災ネットワークの構築 ・花火大会やお祭りなどの行事がある ・子どもの意見「こども復興会議」 ・コミュニティを守りながら高台へ 	

大船渡市復興計画に係る第1回市民ワークショップ結果概要 (平成23年7月10日(日)午後1時30分～4時)

< B班 >

復興計画骨子の項目	災害から立ち上がるために必要なこと	もともとのまちの課題への対応	新たなまちづくりへのアイデア	復興によって目指すべき大船渡市の姿 キーワード(議論のまとめ)
市民生活	【健康】 ・ストレスケアが必要 【住宅】 ・長続きする住宅政策が必要 ・住居の不安、時間的余裕、予算、理想と現実 ・店舗も被災して生活が不便 ・小中学校の校庭に仮設住宅が建設	【人口減少問題】 ・年間500人も人口減少 ・若者の定住が必要 ・高齢化も進行 ・恒久的住宅を建設しないと、人口流出は進む	【まちの姿】 ・活気あるまち ・安らげるまち 【仮設住宅の早期解消】 ・公営マンションによる住宅確保、校庭の返還	生活再建 若者が働ける場のある活気あるまちにしたい 安らげるまちにしたい 健康で安心できる暮らしを取り戻したい 定住できる住まいが今すぐ必要 産業 第一次産業が元気のでる仕組みをつくりたい 若者から高齢者まで元気がでるまちにしたい 海や山、風など自然を大事に守りたい 都市基盤 津波から避難できる道路を確保したい 陸の孤島の解消する道路ネットワークをつくりたい 自然エネルギーを活用し、災害時も困らない暮らしをつくりたい 過去の被災をくりかえさないように、教訓を伝えたい 防災まちづくり 命を守る行動ができる市民を育てたい 復興に向けて 見事な復興、誇りのもてる復興を実現したい 長期的な展望をもった復興計画にしたい 具体性・現実性のある復興計画にしたい こども、学生、女性などみんなの意見を取り入れて復興まちづくりを進めたい
産業経済		【まちの主産業】 ・第一次産業の市場づくりが大事 ・観光客を呼べる漁業に 【新たな産業振興】 ・税制優遇で事業者を呼び込む 【工業】 ・山口・永浜地区は埋め立てて工業用地を創出した 【自然との調和】 ・大船渡湾の水質が悪化している ・市民は環境の悪化を実感している	【新たな産業振興のしくみ】 ・高齢者が元気になる生産物交換の仕組みづくり ・若者に運営を任せる大船渡市の“特区” ・産直施設“海の駅” 【高校生の夢】 ・復興に協力できる仕事につきたい ・山や田舎の風景を活かす ・風力発電、五葉おろしの風を活用 【高速道路整備】 ・三陸道整備で仙台まで通勤圏となる	
都市基盤	【過去の被災経験】 ・チリ津波の時も復興計画が策定されたが、計画には限界がある 【防波堤】 ・防潮堤は必要 ・改良の余地はある ・湾口防波堤は機能したか？ 【道路】 ・丘陵地へ避難する横軸道路が重要 ・陸の孤島をつくらせない道路整備 ・林道の活用 【被災地の土地利用】 ・浸水区域も住居地域とするか？ ・復旧か、復興か ・高台移転はうまくいくのか？ ・リアスホール周辺に住宅建設	【公園】 ・あまり利用されない公園が多い  	【新たな土地利用】 ・臨海部の海洋牧場、つり公園 【大船渡らしさ】 ・これが大船渡、というシンボルを ・山、夜景の活用 【新たな防災機能】 ・湾口防波堤と水質保全の両立 ・津波被害の分析を活かしたまちづくり 【復興まちづくり】 ・女性の視点からもまちづくりを検討したい ・高校生なりにできることをしたい ・見事に復興できたと胸を張れるまち	
防災まちづくり	【避難行動】 ・防波堤では限界があるので避難のソフト対策の強化が必要 ・安全対策の見直しが必要		【次世代に伝える】 ・モニュメントを残す	

復興計画骨子の項目	災害から立ち上がるために必要なこと	もともとのまちの課題への対応	新たなまちづくりへのアイデア	復興によって目指すべき大船渡市の姿 キーワード(議論のまとめ)
市民生活	<p>【子どもたち】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中学生が部活などの活動出来る場所が必要 ・こどもの教育をしっかりすべき <p>【住宅】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早急な宅地造成による住宅再建 ・公営住宅建設が必要 ・仮設住宅用地の見直し(仮設でも住みやすく) <p>【衛生的な環境】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メンタルケア ・八工の駆除(衛生的な環境が必要) ・海中瓦礫、緑地などへの対応 	<p>【人口減少問題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口流出対策、若い人の呼び込みが必要 	<p>【次世代の教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小さいことでもよいから市の“独自”の施策が必要 <p>【発想の転換】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被災をチャンスとし、活かす 	<p>教育</p> <ul style="list-style-type: none"> こどもたちの教育を大事に守りたい 大船渡独自の工夫した教育があるといい <p>防災</p> <ul style="list-style-type: none"> 命を守る安全なまちにしたい 災害時の警報など情報を伝わりやすくしたい 災害経験を活かし、被災をくりかえさないまちにしたい 災害経験を次の世代に伝えていきたい 災害を乗り越えることのできる、たくましい人づくりをしたい <p>産業</p> <ul style="list-style-type: none"> 若い世代の産業後継者を育てたい 仕事を早くみつけれられるような支援が必要 水産業を早期復旧で産業を立て直したい 新たな産業を創出して雇用を生み出したい 企業との連携で新たな産業を展開したい 費用対効果(効率性、経済性)も考えたい <p>住宅・まちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 心身ともに衛生的で健康な生活を、早く取り戻したい 早く安心して住めるようになりたい 漁業や緑地など特徴ある土地利用を進めたい チャンスを活かす発想で復興を進めたい エリアごとに特徴を活かした新しい土地利用を考えたい <p>復興に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> スピード感をもって復興を進めたい こどもたちの発想を取り入れて、次世代のまちを検討したい
産業経済	<p>【仕事の再開】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早急な漁業再開 ・水産設備の早期復旧 ・高校生や失業者への就職斡旋 <p>【生活の利便性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日用品を販売する店舗の早急な整備 	<p>【大船渡市の位置づけ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本、東北、岩手などから見た大船渡の立場、位置づけ <p>【新たな産業の育成、雇用創出】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・瓦礫撤去や鉄くず再利用などで新たな産業、雇用創出(企業との連携など) ・制限を緩和し門戸を広げて後継者育成 	<p>【水産業の発展】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・津波に強い養殖施設づくり ・放射性物質対策 <p>【産業振興の方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工業用地を造成 ・企業と協力した産業復興 <p>【事業効果分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・費用対効果を考えた対策 	
都市基盤	<p>【長期的な土地利用の視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数年後の仮設住宅用地はどうなっているか? <p>【津波防災施設】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・湾港防波堤を中心とした対策 ・津波被害を二度と出さない対策 ・津波シェルターの設置 ・防波堤より高台への移転が先 ・防波堤よりも地盤の嵩上げが必要 		<p>【土地利用の考え方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被災跡地の特色づけた利用(漁業や緑地、吉浜はわかめ養殖に特化等) ・被災跡地を国に貸与し利用 ・エリアごとの特徴あるまちづくり <p>【発想の転換】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・従来の観念とは異なった新たな構想 ・子ども会議を行う 	
防災まちづくり	<p>【災害時の情報】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・震災時の防災無線のあり方検討(警報放送の仕方があいまいだった) ・警報のあり方検討(地区により対応が異なった) 		<p>【次世代に伝える】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去の被害を分析し、生かす(例:吉浜地区) ・被害が少なかった地区への分析 ・津波を次世代に伝える ・現代の親の再教育 ・教育訓練プログラムの導入(サバイバル、意識) ・ソフト面の対策 	

